其の無責任を詰ると共に、一方十月十四日の市會に於ても、所屬市會議員をして殆ど浣腸なきまでに市當局の態度を攻擊せしめたり。

茲に於て、市當局も漸く、從來執り來つた自己の態度の非を悟りて、對策を講じたる結果、再び無事給水を受くることとなり、盜水の件は終に司直の手に移りて圓滿なる解決を見たのである。

第五章　黨務報告

一、組織部報告

第一章及び第二章に於て詳報せる事實に依り略々想像せられるであらう如く、吾が組織部一年間に於ける活動の主力は分會組織の完成に嚮けられたのであつた。

選擧區分區制の設定に依る既成政黨の陣容の變化に對應する爲めには、從來の黨組織を工場單位より地域單位へ移すところの分會組織こそ、最も緊要にして且つ最も有效なる戰術でなければならなかつた。

第二回支部大會の決議により、總ゆる困難を克服し、あらゆる障碍を突破して、此の目的のために善鬪健鬪すること三ケ月、市議戰直前に到りて漸く市內六ケ所の選擧分區毎に一分會宛の六ケ分會の結成を實現した。四月の市會議員選擧に當りて、自己選擧區の候補者選定及び選擧運動に表はれたる各分會の眞摯なる態度と眞劍なる活躍は、實に顯著なるものがあつた。是の各分會の決死的活躍こそ、吾黨の壓倒的大捷利の根因だつたのである。

分會は、此の戰陣を捷利に導いたことによつて、其の重大使命を果たした。然し、それは飽くまでも、分會が有つ一つの使命であつて、全部の使命ではなかつた。

從つて、市議戰終局以後、分會は、第一、支部の中央集權的力を減殺し、同時に市內單一的の全面的の敏活なる鬪爭力の發動を困難ならしめ、第二、支部及び分會間の連絡關係の複雜化によつて徒らに黨事務の煩雜を來たして、畢竟支部の發展を阻害するものなるが故に、且つは、分會組織を絕對必要とした市議戰も終つたのであるから、宜しく分會を解體すべしと爲す分會無用論に對し、執行部の大部分の意見は、『分會は、勿論、分區制による敵の戰列組織であつての吾黨陣容の變革しの爲めの組織であつて、それは單に選擧區分區制の設定に依る敵の戰列組織の變革しの爲めの組織であることは疑ひを挿き難き事實である。然じながら、分會組織は、反對黨派の主張するが如く、吾黨の缺陷を補ひて猶ほ余りある長所と使命を有つ。社會民主主義思想及び勢力の民衆の日常生活への浸透は其の第一である、第二、民衆は、假令それが如何に些小なるものであらうと、自己の生活に最も近き事象及び問題に對して最も緊密なる利害關係を持ちまた感ずる。其等の民衆と最も近き事象及び問題に關し日常鬪爭を爲すためには、地域的分會組織を最も便利にして有効なる組織とする。更ちに第三は、由來既成政黨の最大的强味は、所謂町內有志として地方的に蟠居し、その豐富なる財力と古き情實とを以て地方民を買收籠絡して居る處に在る、而も之れを碎破する唯一つの途は、地方民を分會の下に教育し、訓練して、常住坐臥鬪爭を續くることである。』といふのであつて、市會議員選擧以後は支部固有の黨務及び鬪爭に全力を傾倒し來つたが故に、分會の發展に關しては多少努力の足らざる憾みはあつたけれども、能ふ限り刻苦經營を續けて今日に及んで居る。

分會組織に就いて、更らに吾等の見逃がしてはならない、今一つの收穫は、從來動々もすれば製鐵所從業員中心主義を採るものゝ如く思はれ、從つて或程度まで一般市民の入黨を阻止してゐたのであつたが、分會組織による黨の地域的展開のために、門戶の開放に屑一屑闊く且つ自由となり、製鐵以外の勞働屑及び市民屑の方面へも可なり確乎たる地盤を築き得たことである。殊に、智識階級の間に於ける、吾黨に對する共鳴と支持は最も顯著なる事實であつて、既に其の中特に熱心なる一部の者は、敢然吾等の陣營內に直入して、或は黨幹部として、或は黨員として眞に驚歎に値する活動を續けつゝある。

昭和四年三月、吾が組織部は八幡市議戰を目睫の間に控へ、連日連夜其の準備に忙殺されてゐたにも拘らず、隣接町折尾町の分會組織を完成して、同年四月の町會議員選擧には同志一名を立候補せしめ、惜敗を喫したるも、其後大いに黨勢の擴張に成功しつゝある。

二、教育部報告

鬪爭の基礎は教育に在る。常住不斷の黨員及び大衆の社會民主主義的教育こそ、光りへの路であり、吾等が理想する新社會への途である。教育の力による社會民主主義の理論的把握なき鬪爭は跛者であり、其の主張と所說に何等の根據